



野間仁根《牛耕之図》1949年

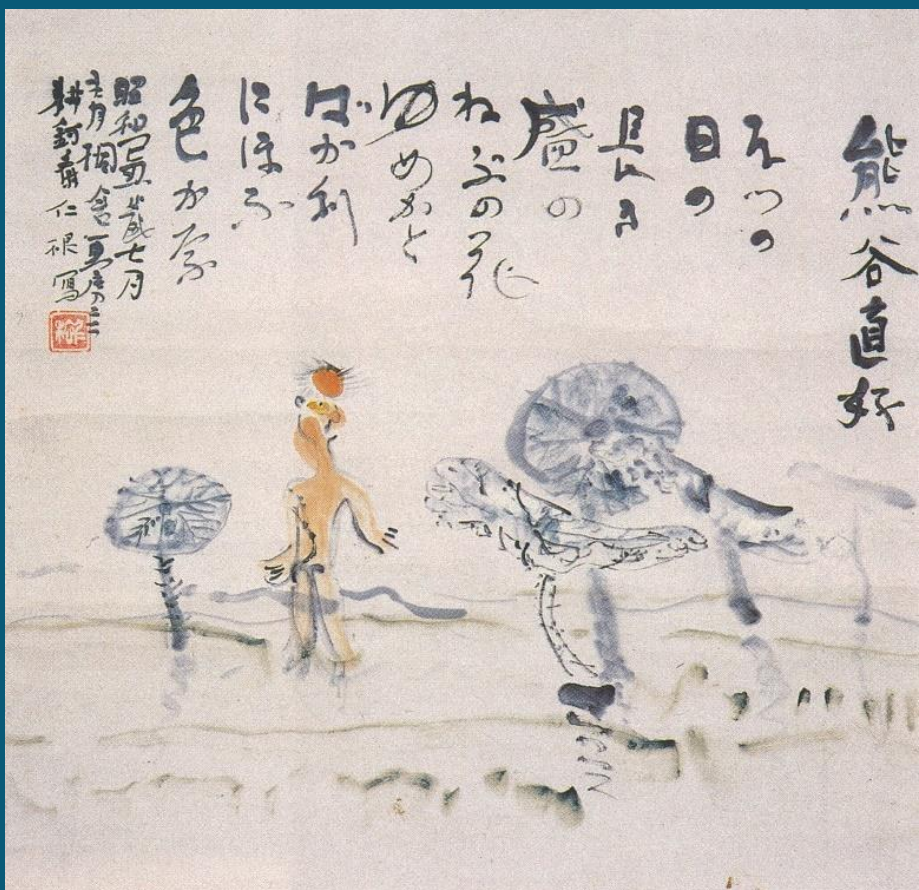


村上壺天子《田舎の風景》制作年不詳

館蔵品展

仁根と壺天子

2022.1.22(土)～2022.4.17(日)



野間仁根《河童之図》1949年

開館時間 / 9:00～17:00

(入場は16:30まで)

休館日 / 月曜日(祝日の場合は直近の平日)

入館料 / 一般310円・学生160円

高校生以下または18歳未満無料

※大人団体(20名以上) 250円

※65歳以上の方250円

※障害者手帳をお持ちの方及び

その介助者1名は無料

野間仁根  バラのミュージアム

(今治市吉海郷土文化センター)

〒794-2103 愛媛県今治市吉海町

福田1290番地

TEL/FAX (0897) 84-2566

野間仁根バラのミュージアムHP →



今治市吉海町出身の洋画家・野間仁根と俳人・村上壺天子の水墨画を展示いたします。

野間仁根は、越智郡津倉村（現今治市吉海町福田）に生まれました。東京美術学校（現東京芸術大学）在学中に二科展で初入選し、以後二科会、後に一陽会で活躍します。

村上壺天子（本名 村上万壽男）は、越智郡大山村（現今治市吉海町泊）に生まれました。愛媛師範学校を卒業後、県内の小学校長を歴任するかたわら俳句を学び、俳誌『渋柿』を創刊した松根東洋城に師事し、後に『渋柿』の同人・選者として活動しました。

仁根と壺天子の交流は、戦時中、二人が郷里へ疎開してきたことをきっかけにはじまりました。二人は終戦後もそのまま郷里に留まり、島内の有志を募って「泊句会」を結成し、俳句や写生を楽しみました。仁根は、色鮮やかな油彩画を数多く描いていますが、この頃は壺天子の影響もあってか、素朴で温かみのある水墨画を多く描いています。壺天子も師匠や流派を持たず、味のあるおおらかな筆遣いで水墨画を描いています。自由にのびやかに描かれた二人の水墨画をお楽しみください。

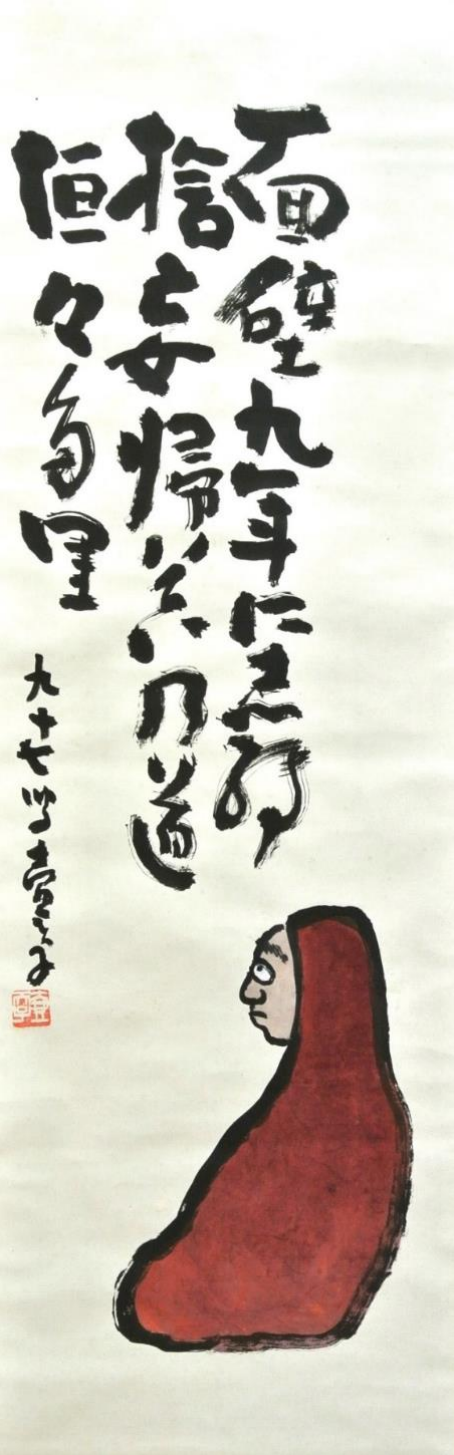
《参考》長井 健『野間仁根の文人性について -昭和10~20年代の動向を中心に-』
森 光繁『村上壺天子素描』



野間仁根《早春之図》1949年



村上壺天子《べら釣図》1983年



村上壺天子《達磨図》1984年

のま ひとね
野間 仁根
(1901 - 1979)



◆略歴◆

- | | |
|-------|---|
| 1901年 | 2月5日越智郡津倉村(現今治市吉海町福田)に生まれる。 |
| 1919年 | 伯父を頼り、母と上京。 |
| 1920年 | 川端画学校で学び、東京美術学校(現東京芸術大学)に入学。 |
| 1924年 | 第11回二科展で「ランプのある静物」が初入選。 |
| 1925年 | 東京美術学校を卒業。 |
| 1928年 | 第15回二科展で「夜の床」が樗牛賞受賞。 |
| 1929年 | 第16回二科展で「ぜ・ふうるむうん」が二科賞受賞。 |
| 1931年 | 佐藤春夫作「むさしの少女」に挿絵を描く。 |
| 1932年 | 津倉村に於いて志那と結婚。 |
| 1933年 | 二科会会員に推挙される。 |
| 1944年 | 郷里(津倉村)に疎開。軍の命令で二科会解散。 |
| 1945年 | 二科会が再建され、入会。 |
| 1955年 | 二科会脱退。同年、鈴木信太郎らと一陽会を結成。その後、個展や小規模なグループ展を開催。 |
| 1979年 | 12月30日、78歳で逝去。吉海町の福蔵寺に眠る。 |

◆アクセス◆

愛媛県側から

- [自動車] しまなみ海道大島南ICから約10分
[バス] 松山市駅／今治駅より
大三島行き高速バスにて「吉海支所」下車、
バス停より徒歩15分

むらかみ こてんし
村上 壺天子
(1887 - 1984)



◆略歴◆

- | | |
|-------|------------------------------------|
| 1887年 | 12月1日越智郡大山村(現今治市吉海町泊)に生まれる。 |
| 1903年 | 愛媛師範学校に入学。
愛媛師範俳句会で村上霽月に指導を受ける。 |
| 1907年 | 愛媛師範学校を卒業。 |
| 1909年 | 大山村余所国(現今治市宮窪町)の村上家の婿養子となる。 |
| 1910年 | 余所国小学校(現今治市宮窪町)校長となる。 |
| 1919年 | 弓削小学校(現越智郡上島町)校長となる。 |
| 1921年 | 『渋柿』の同人となり、投稿を始める。 |
| 1927年 | 『壺天子句集』発刊。 |
| 1929年 | 余土小学校(現松山市)校長となる。 |
| 1942年 | 渋柿課題句選者に選ばれる。 |
| 1945年 | 戦災に遭い、郷里(余所国)に帰郷。 |
| 1951年 | 『句集綿津見』発刊。 |
| 1953年 | 第1回個展開催。 |
| 1984年 | 12月26日、97歳で逝去。 |

広島県側から

- [自動車] しまなみ海道大島北ICから約10分
[バス] 広島バスセンター／福山駅前より
しまなみライナーにて大島BS下車、
島内路線バスに乗換
「幸（さいわい）」下車、バス停より徒歩10分